

‘ふるさと発見’ スポット紹介

☆役所（高座郡衙）跡（国指定史跡）



グラウンドを囲む桜

約1,300年前（奈良時代）の高座郡の役所跡が茅ヶ崎北陵高校の建替計画の調査でグラウンドからみつけられました。郡庁舎建物と正倉といわれる倉4棟の建物の柱穴が整然と並んでいました。

☆寺院（七堂伽藍）跡（国指定史跡）

海老名国分寺よりも先に建っていました。役所と寺院が近くで共存した貴重な史跡です。



（伽藍域：約80m×80m）
（JR相模線側から撮影）

☆弥生時代の環濠跡（国指定史跡）

約2,000年前の弥生時代の集落の周囲に巡らした堀（環濠）が茅ヶ崎北陵高校を含む台地の上と縁辺部で見つかっています。関東における大きな環濠集落の一つです



小出川 旧校舎



深い堀

☆西方貝塚

約5,500年前（縄文時代前期）は台地（高座丘陵）下まで海だったと考えられ、干潟で採って食べたヤマトシジミなどの貝殻と竪穴住居のあとが見つかっています。



（坂の途中）

☆勘重郎堀と三橋勘重郎の墓、供養塔



用水堀跡

（玄瑞寺の脇にあります。）

香川の名主三橋勘重郎が約250年前（安永年間）に下寺尾の大岡橋の辺りから香川まで用水を引いて香川地区の農地を整備したり、飢饉のときには年貢をまけるよう領主に直訴したなどと伝えられています。

ぶらり散歩

香川駅から北に向かい右に大きく曲がる先の右手に大きなしだれ桜があり、3月末頃に見事な花を咲かせて道行く人を楽しませてくれます。

この地区は古代から栄えた地で奈良時代の役所跡や寺院跡があり、国の指定史跡になっています。

駒寄川に沿って新たなまち‘みずき’が誕生し、川の両側に緑道と公園ができました。（平成17年）



（香川駅からの道）

香川駅から文化の中心地へ

徒歩：香川駅→踏切→北陵橋→高校グラウンド
歩程：約1km、約20分
（コミバス北陵高校入口まで3分）



→西方貝塚→七堂伽藍跡
→三橋勘重郎の墓→供養塔→香川駅
（全歩程：約3km 約1時間）

“ちがさき丸ごとふるさと発見博物館”

茅ヶ崎全域を博物館と見立てて、地域の宝を活用して

- ①生涯を通じて学習したことを地域に活かせる
- ②文化が身近に感じられる
- ③ふるさとを愛する気持ちを持つ仲間が増やせる

“地域（=まち）づくり！”を目指しています。

（No.2作成：2011.8.28、改訂：2025.8.1）

ちがさき

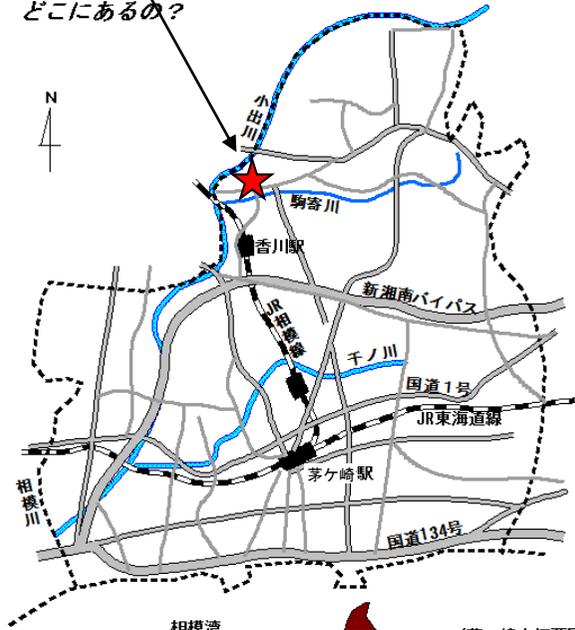
ちがさき 丸ごとふるさと発見博物館

香川・下寺尾の周辺

文化の中心地だったのかな？

約1,300年前（奈良時代）相模国高座郡の役所と寺院跡は下寺尾官衙遺跡群として国指定史跡となっています。しだれ桜、地元野菜、地ビール 新しいまち‘みずき’

どこにあるの？



相模湾

（茅ヶ崎市概要図）

